

大学の世界展開力強化事業 構想概要 東京工業大学

【構想の名称】(タイプA-I)

日中韓先進科学技術大学教育環

【構想の概要】

本構想は、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「(1)学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「(2)大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ プログラムの目的・養成する人材像

○ 卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材の育成

本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ 質の保証に関する考え方

本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方として、このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行う。

○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮

プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書(Study and Research Plan)」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整える。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行う。相手大学からの学生に対し本学は、来日前からオープンコースウェア(OCW)による履修案内など、英語による情報提供を行い、また、来日後は指導教員に加え、チューターを指名することにより、修学面における十分な配慮を行う。

○ より高度な交流の枠組みへの展開

本構想は、実施期間中に、いわゆるデュアルディグリープログラムを含む、より進んだ形態のプログラムに発展させることを予定している。また、本学、清華大学、KAISTの三大学は、香港科学技術大学、南洋理工大学とともに、ASPIREリーグと名付けられた大学コンソーシアムを形成しており、本構想により実施される質の保証を伴う交流は、日中韓の枠組みを越えた、アジアにおける理工系大学間の交流の質の向上に反映される。さらに、ヨーロッパのトップの理工系大学が加盟するコンソーシアムであるIDEAリーグや、米国の著名大学との間の交流においても並行して質の向上の取り組みを展開する。

〈 ASPIREリーグ学生ワークショップ風景 〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページを通じた情報の提供および卓越した人材の輩出

プログラム実施については、独自のホームページを開設するとともに、既存の本学英文ホームページや相手大学のホームページと関連させ、参加学生に留まらない、幅広い層を対象に情報の提供を行う。また、「修学・研究計画書」の利用や共通性の高い成績管理などは、他大学も参考にできる形で開示する。プログラムの成果は、最終的には卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材として結実するが、将来的には、輩出された人材のネットワーク化を目指す。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

「英語塾(仮称)」を開設し、留学を志望する学生の語学力の向上をはかる。また、新たに留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行う。留学中は、メール等により修学・生活上の相談を行うとともに、キャリアアドバイザーによる帰国後のキャリアに関する助言を行う。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、相手大学と緊密な連絡を取り円滑な受入れに努める。滞日中は、専門に近い本学学生をチューターに指名し、また、24時間体制のカウンセリングやキャリアアドバイザーによる助言を行う。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度以降、毎年、清華大学およびKAISTにそれぞれ5人(計10人)の学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度以降、毎年、清華大学およびKAISTからそれぞれ5人(計10人)の学生を受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣		10人	10人	10人	10人
学生の受入		10人	10人	10人	10人

大学の世界展開力強化事業 取組実績 東京工業大学

【構想の名称】(タイプA－ I CAMPUS Asia Pilot Program)

日中韓先進科学技術大学教育環

【プログラムの目的・養成する人材像】

本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。

【構想の概要】

本構想は、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「(1)学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「(2)大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する考え方

本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方としている。このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行う。

○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮

プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書(Study and Research Plan)」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整える。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行う。相手大学からの学生に対し本学は、来日前からOCWなどをとおした情報提供を行い、来日後は指導教員に加え、チューターを指名し、修学面における十分な配慮を行う。



○ より高度な交流の枠組みへの展開

本構想は、いわゆるデュアルディグリープログラムを含む、より進んだ形態のプログラムに発展させることを予定している。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

ASPIRE League students' workshop



○ 本学が主催するサマープログラムへの参加学生の決定

サマースクールおよび研究室における実験等により構成されるサマープログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを決定した。

○ 相手大学への本学学生の派遣

清華大学およびKAISTへ派遣する学生を、学内公募をとおして選考、決定した。

○ 三大学間における交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組み

三大学の構想責任者および関係教職員が頻繁に相手大学を訪問し、実施にかかる手順や書式の制定等、交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組みを実施している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度以降、毎年、清華大学およびKAISTにそれぞれ5人(計10人)の学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度以降、毎年、清華大学およびKAISTからそれぞれ5人(計10人)の学生を受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	0	C5, K5	C5, K5	C5, K5	C5, K5
中国への受入	0	J5, K5	J5, K5	J5, K5	J5, K5
韓国への受入	0	C5, J5	C5, J5	C5, J5	C5, J5

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

「英語塾(仮称)」を開設し、留学を志望する学生の語学力の向上をはかる。また、新たに留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行う。留学中は、メール等により修学・生活上の相談を行うとともに、キャリアアドバイザーによる帰国後のキャリアに関する助言を行う。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、相手大学と緊密な連絡を取り円滑な受入れに努める。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、また、24時間体制のカウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行う。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページを通じた情報の提供および卓越した人材の輩出

プログラム実施については、独自のホームページを開設するとともに、既存の本学英文ホームページや相手大学のホームページと関連させ、参加学生に留まらない、幅広い層を対象に情報の提供を行う。また、「修学・研究計画書」の利用や共通性の高い成績管理などは、他大学も参考にできる形で開示する。プログラムの成果は、最終的には卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材として結実するが、将来的には、輩出された人材のネットワーク化を目指す。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 東京工業大学

【構想の名称】(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program)

日中韓先進科学技術大学教育環

【プログラムの目的・養成する人材像】

本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。

【構想の概要】

本構想は、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「(1)学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「(2)大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する考え方

本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方として、このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行った。

○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮

プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書(Study and Research Plan)」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整えた。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行った。相手大学からの学生に対し本学は、来日前からOCWなどをとおした情報提供を行い、来日後は指導教員に加え、チューターを指名し、修学面における十分な配慮を行った。

○ より高度な交流の枠組みへの展開

本構想は、いわゆるデュアルディグリープログラムを含む、より進んだ形態のプログラムに発展させることを予定している。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

サマースクールにて討論している様子



○ 本学が主催するサマープログラムへの参加学生の決定

サマースクールおよび研究室における実験等により構成されるサマープログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを行った。

○ 相手大学への本学学生の派遣

清華大学およびKAISTへ派遣学生を、学内公募をとおして選考し、派遣を行った

○ 三大学間における交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組み

三大学による合同委員会を設置し、「Implementation Guidelines」を取り交わして、実施にかかる手順や書式の制定等、交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組みを進めている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

清華大学およびKAISTに毎年原則として各5人(計10人)の学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

清華大学およびKAISTから毎年原則として各5人(計10人)の学生を受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C7, K8	C5, K5	C5, K5	C5, K5
中国(C)での受入	0	J4, K5	J5, K5	J5, K5	J5, K5
韓国(K)での受入	0	C5, J7	C5, J5	C5, J5	C5, J5

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、英語トレーニングを開設した。また留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、国際連携プランナーが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めている。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、カウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行った。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページを通じた情報の提供および卓越した人材の輩出

プログラム実施については、ホームページを開設するとともに、シンポジウムを開催し、清華大学およびKAISTから講演者を迎え、大学間の質の保証を伴う教育の交流、理工系リーダー教育についての先端的取組みや課題について議論を深め、広く学内外に発信した。プログラムの成果は、最終的には卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材として結実するが、将来的には、輩出された人材のネットワーク化を目指している。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 東京工業大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program))

日中韓先進科学技術大学教育環

【プログラムの目的・養成する人材像】

本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。

【構想の概要】

本構想は、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「(1)学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「(2)大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する考え方

本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方として、このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行った。

○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮

プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書(Study and Research Plan)」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整えた。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行った。相手大学からの学生に対し本学は、来日前から情報提供を行い、来日後は指導教員に加え、チューターを指名し、修学面における十分な配慮を行った。

○ より高度な交流の枠組みへの展開

本構想は、いわゆるデュアルディグリープログラムを含む、より進んだ形態のプログラムに発展させることを予定している。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



サマープログラムにてグループワークを行う学生

○ 本学が主催するサマープログラムへの参加学生の決定

サマースクールおよび研究室における実験等により構成されるサマープログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを行った。

○ 相手大学への本学学生の派遣

清華大学およびKAISTへ派遣学生を、学内公募をとおして選考し、派遣を行った

○ 三大学間における交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組み

三大学による合同委員会を設置し、「Implementation Guidelines」を取り交わして、実施にかかる手順や書式の制定等、交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組みを進めている。また、KAISTとの間では、ダブルディグリー締結にむけた基本協定書を締結した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

清華大学およびKAISTに毎年原則として各5人(計10人)の学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

清華大学およびKAISTから毎年原則として各5人(計10人)の学生を受入れる。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、英語トレーニングを開設した。また留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、国際連携プランナーが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めている。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、カウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行った。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページを通じた情報の提供および卓越した人材の輩出

プログラム実施については、ホームページを開設するとともに、シンポジウムを開催し、清華大学およびKAISTから講演者を迎え、大学間の質の保証を伴う教育の交流、理工系リーダー教育についての先端的取組みや課題について議論を深め、広く学内外に発信した。プログラムの成果は、最終的には卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材として結実するが、将来的には、輩出された人材のネットワーク化を目指している。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C7, K8	C8, K8	C5, K5	C5, K5
中国(C)での受入	0	J4, K5	J4, K6	J5, K5	J5, K5
韓国(K)での受入	0	C5, J7	C22, J6	C5, J5	C5, J5

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 東京工業大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

日中韓先進科学技術大学教育環

【プログラムの目的・養成する人材像】

本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。

【構想の概要】

本構想は、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「(1)学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「(2)大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する考え方

本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方として、このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行った。

○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮

プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書(Study and Research Plan)」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整えた。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行った。相手大学からの学生に対し本学は、来日前から情報提供を行い、来日後は指導教員に加え、チューターを指名し、修学面における十分な配慮を行った。

○ より高度な交流の枠組みへの展開

本構想は、いわゆるデュアルディグリープログラムを含む、より進んだ形態のプログラムに発展させることを予定している。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



サマープログラムにて授業を受ける学生

○ 本学が主催するサマープログラムへの参加学生の決定

サマースクールおよび研究室における実験等により構成されるサマープログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを行った。

○ 相手大学への本学学生の派遣

清華大学およびKAISTへ派遣学生を、学内公募をとおして選考し、派遣を行った

○ 三大学間における交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組み

三大学による合同委員会を設置し、「Implementation Guidelines」を取り交わして、実施にかかる手順や書式の制定等、交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組みを進めている。また、KAISTとの間では、ダブルディグリー締結にむけた学長レベルでの共同教育協定書を締結した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

清華大学およびKAISTに毎年原則として各5人(計10人)の学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

清華大学およびKAISTから毎年原則として各5人(計10人)の学生を受入れる。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注)H23~H26は実績、H27は計画。

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、英語トレーニングを開設した。また留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、国際連携プランナーが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めている。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、カウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ 大学の国際化の状況

全学生に占める大学の留学生比率は12%となっている。また、現在進行中の教育改革にて、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制を整えつつある。

○ 情報の公開・成果の普及

キャンパスアジア採択大学の取り組みを網羅したWebサイトを開設し、広く学内外に情報発信した。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C7, K8	C8, K8	C9, K12	C5, K5
中国(C)での受入	0	J4, K5	J4, K6	J3, K3	J5, K5
韓国(K)での受入	0	C5, J7	C22, J6	C13, J9	C5, J5

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 東京工業大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

日中韓先進科学技術大学教育環

【プログラムの目的・養成する人材像】

本構想において育成される人材像は、世界の大学、国際的な企業、そして国際機関等で活躍する、卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材である。この目的の実現のため、学生に対する動機づけに始まる、一貫したキャリア形成に向けた指導を行う。

【構想の概要】

本構想は、清華大学、韓国科学技術院(KAIST)と協力し実施する、研究重視型教育プログラムである。「(1)学部及び大学院修士課程の学生を対象とした科目履修および研究室での実験等のプログラム」、および「(2)大学院課程の学生を対象とした研究に重点を置いた教育プログラム」を通して、質の高い履修成果の認定および研究成果の評価の枠組みを構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する考え方

本構想は、各大学の質の高い教育研究システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が効果的に履修の成果を挙げることのできる制度を構築することを基本的な考え方として、このため、合同委員会を設置し、質の保証への取り組みを行った。

○ 単位の認定、成績管理、学生への配慮

プログラムへの個々の参加学生については、双方の大学の間で「修学・研究計画書(Study and Research Plan)」を取り交わし、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、指導教員の助言のもと履修を行う制度を構築し、円滑に単位の認定を行う体制を整えた。また、共通性が保たれた成績証明書等を発行することにより成績管理を行った。相手大学からの学生に対し本学は、来日前から情報提供を行い、来日後は指導教員に加え、専門に近い本学学生をチューターに指名し、修学面における十分な配慮を行った。

○ より高度な交流の枠組みへの展開

KAISTとの間で機械工学系分野におけるダブルディグリープログラム協定書を締結。他分野への拡充の第一歩とした。

左上から：
清華大学、東京工業大学、KAIST



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



サマープログラムの授業後

○ **本学のサマープログラム・研究重視型プログラムへの参加学生の受入れ**
サマースクールおよび研究重視型プログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを行った。

○ 相手大学への本学学生の派遣

清華大学およびKAISTへ派遣学生を学内公募を通して選考し、派遣を行った。

○ 三大学間における交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組み

三大学による合同委員会を設置し、「Implementation Guidelines」を取り交わして、実施にかかる手順や書式の制定等、交流の枠組みと質の保証の構築に向けた取り組みを進めた。また、外部評価委員会を実施し、プログラムに対する評価と意見を伺い、プログラムのさらなる改善に生かした。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

2015年度は、清華大学に1人、KAISTに5人(計6人)の学生の派遣を行った。

○ 外国人留学生の受入れ

2015年度は、清華大学から6人、KAISTから11人(計17人)の学生の受入れを行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C7, K8	C8, K8	C9, K12	C6, K11
中国(C)での受入	0	J4, K5	J4, K6	J3, K3	J1, K7
韓国(K)での受入	0	C5, J7	C22, J6	C13, J9	C15, J5

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、英語トレーニングを開設した。また留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、国際連携プランナーが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めた。滞日中は、専門に近い本学学生をチューターに指名し、カウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ 大学の国際化の状況

全学生に占める大学の留学生比率は12%となっている。また、教育改革による新体制(H28年4月～)がスタートし、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制を整えつつある。

○ 情報の公開・成果の普及

キャンパスアジア採択大学の取り組みを網羅したウェブサイトの充実をはかり、広く学内外に情報発信した。